

モデル事業名	新住民支援ネットワーク事業
活動団体名	とくていひえいりかつどうほうじん <small>だいがくちいきじりつしえん</small> 特定非営利活動法人やまなみ大学地域自立支援センター
ホームページ	http://yamanami-net.jp/
所属/ 担当者名	ご担当者氏名（お問合せ先） 山本正克
連絡先	0826-82-3993 Email:cc50y@yamanami-net.jp
活動地域	ひろしまけん みよしし しょうばらし あまたかたし はつかいちし きたひろしまちよう あきおおたちよう じんせきこうげんちよう 広島県、三次市・庄原市・安芸高田市・廿日市市・北広島町・安芸太田町・神石高原町

● 活動地域の概要

広島県の中山間地域は、少子高齢化による過疎化が進展し、農業後継者の不足や農地の保持、集落コミュニティの維持さえ難しい地域も出ている。

- 1、この地域の高齢化率は神石高原町と安芸太田町の43%を筆頭に平均36%となっている
- 2、この地域の出生率は平均6.8%、死亡率は平均15.8%と死亡率が2.3倍も多い。
- 3、耕地面積は、平成7年24,666ha、平成17年24426haと10年で約23%も減少している。
- 4、小売店は、昭和60年4,918店、平成7年4,070店、平成17年3,682店と年々減少し、20年で25%も減少している。（データは、すべて広島県の統計年鑑より）



広島県マップ □で囲った市町が事業エリアの市町



放棄された民家や耕作放棄地が多くなっている。



中山間地域の商店街、商店の多くが閉まり、空き家、空き地が目立つ。

● 活動地域の課題

過疎化・高齢化で、地域社会の維持や農業の後継者育成もままならない状況が深刻化している中山間地域に、新たな住民（新住民）がスムーズに溶け込み地域活性化の力となるような仕組みづくり、またその新住民と地域をつなぐための人材の育成、地域自治体や企業、大学などがそれぞれ役割分担しながら協働できるネットワークの構築を目指す。

● 活動の内容

（全体）

- 1、新住民の定住による過疎化・高齢化する地域の担い手づくり、閉鎖性の強い田舎からの意識改革。
- 2、地域と住民、そして都市住民がサポートセンターや情報センターで結ばれ、情報過疎から脱却し豊かな交流が生まれること。地域コーディネーターが地域の課題、交流事業、地域産業の創出に力を発揮し、地域活力を創造すること。
- 3、自治体や地域企業・団体・住民の情報のボトルネックを解消し、田舎の情報競争力を向上させる。
- 4、田舎の、豊かな自然資源、豊かな心、豊かな人間関係、豊かな地域文化を生かした豊かで安心・安全な質の高い地域社会の再興を目指し、産官学民がさらに協力・協働できる体制づくり。

（直近1年間の進捗など）

- 1、広島県内在住の地域住民と新住民や田舎暮らしを目指すI・J・Uターンゆるやかネットワーク設立。
- 2、地域コーディネーター育成研修から発生し、三次市において地域資源発掘プロジェクトを実施。
- 3、安芸高田市において、全市域の空き家調査スタート。

● 活動の成果

・全体

(活動の成果、地域内での反響・効果及び周辺への波及効果等について記入)

- 1、新住民支援のための「地域コーディネーター育成プログラム」や「地域コーディネーター育成研修」のノウハウが新住民支援のみならず、地域づくりや地域の人材育成に利用できそうである。
- 2、新住民支援のためのモデル地区試行が、空き家対策や耕作放棄地活用、また、特産品開発まで波及する可能性がでてきた。産直市場や生産組合、農業委員、町づくり会社などと連携して取り組む機運ができた。
- 3、町づくり団体や地域NPOなどと、広く町づくりのための人材育成に来年度以降取り組むことになったこと。
- 4、新住民支援ネットワーク事業で得た知識経験は、過疎地の地域づくり貢献でき、芸北・てらこやネットワークやNPO善菊会、三次市の南部4町の「地域資源発掘プロジェクト」などに発展・応用されている。



平成21年に実施した地域コーディネーター研修風景



平成22年に実施した、地域資源発掘研修の様子

・直近1年間の成果など

(活動の状況、地域内での反響・効果及び周辺への波及効果等について記入)

- 1、三次市の地域資源発掘プロジェクトでは、新住民支援のための「地域コーディネーター育成プログラム」を活用して、人材の発掘、地域資源の発掘等を行い、三次市の南部4町連携の地域イメージ作成。連携イベント、三次・みなみ4町をつなぐ「夕陽のふる里」づくりがスタート。地域内の「夕陽スポット募集」事業やインターネット上に当地域のプラットフォーム作りが進行中。中国新聞社や地域ケーブルテレビ等でも注目されている。
- 2、地域NPOや地域住民などと連携した新住民や田舎暮らしを目指すI・J・Uターンゆるやかネットワーク設立され、親睦会や意見交換会、アドバイス等で交流が始まっている。
- 3、安芸高田市においては、新住民支援のネットワークや、定住への取り組みを評価いただき、安芸高田市全域の空き家調査がスタート。定住促進のための基礎調査及び検証を行なっている。
- 4、新住民支援ネットワーク「サポートセンター」への問い合わせもインターネットを通じてのものが増えてきつつあり、さまざまな取り組みの相乗効果か、田舎への移住者も増えている。



U・J・Uターンゆるやかネットワークの交流会



安芸高田市での空き家調査スナップ

● 今後の課題及び展望

・課題 (活動を通して発見された課題等を記入)

- 1、新住民を受入れるだけでは、田舎の課題の解決には至らないこと、定住を進めるにはさまざまな地域課題が繋がっており、地域のあり方そのものを考えていかななくてはならないこと。
- 2、地域づくり、新住民の受入れは、当然ながら国、自治体、地域、住民、地域団体の連携と役割分担による協働の仕組みが必要である。
- 3、田舎からの情報発信力の強化、活動の資金も大きな課題である。

・展望 (今後の取組みや検討について記入)

- 1、新住民支援の活動はこのまま継続し、さまざまなネットワークを拡大し連携して支援や協力を続ける。
- 2、いままでのノウハウや経験を地域づくりへ生かすために、地域資源活用研究所の設立を目指す。

● その他 (自由記述)

田舎ほど、地域が重層的に繋がっており、それぞれの課題の解決に対処療法では高コストとなると共に限界がある。過疎化や地域が衰退している地域こそ、地域づくりにビジョンを持って取り組む必要があると考える。また、行政と地域や住民との信頼関係の構築が行政コストを最も低くする。そのためには、住民と自治体等との役割分担による協働の仕組みが望まれる。なお、地域ビジョンは地域住民自身によって、より多くの住民が共感するものであることが必要と考える。